

一般講演 I

座長：梶原 充（県立広島病院）

③ LOH 症候群に対する漢方治療の検討

順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学

子安 洋輝、脇田 春彦、宇井 万里子、中村 聡
黒澤 誠、芦澤 健、家田 健史、知名 俊幸
北村 香介、永田 政義、磯谷 周治、土井 直人
和久本 芳影、武藤 智、堀江 重郎

【緒言】

加齢男性性腺機能低下症候群 (late-onset hypogonadism LOH 症候群) のうち男性ホルモン低値の患者に対する男性ホルモン補充療法には一定の方針が示されている。しかしながら当院では血液検査での男性ホルモン値の結果判明前の早期より治療希望の方や男性ホルモン値が正常であり男性ホルモン補充療法の適応にならない場合などに漢方療法を施行している。

【対象】

当院のメンズヘルス外来を受診した不定愁訴を伴う加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) 患者53名を対象として補中益気湯投与による改善効果の検討を行った。治療開始前の初診時に問診票を使用しAMSスコア (Heinemann aging male symptoms score) の確認および血清総テストステロン値、PSAを含む血液検査を施行している。

漢方薬療法において症状の改善に乏しいなどの理由で漢方薬以外の薬剤に変更した方や初診時の血液検査で低テストステロンのためテストステロン補充療法を導入した方、PSA高値のため前立腺癌が発見された方などは今回の症例からは除外している。

【方法】

初診時の検査および問診票の聴取終了後より補中益気湯1包2.5gを1日3回内服開始する。約3か月毎に血液検査を施行し3か月後、6か月後の時点での血液検査での血清総テストステロン値の改善効果についての検討を行う。受診されたすべての患者には睡眠の質の向上についての指導や適度な運動をするようになどの生活指導を行っている。また喫煙をしている方には禁煙をすすめている。

【結果】

患者群では中央値で年齢52歳、身長169cm、体重67.7kg、BMI23.4、PSA0.901ng/ml、初診時AMSスコア47点、治療開始前血清総テストステロン5.02ng/ml、3回目の血液検査では血清総テストステロン5.69ng/mlの結果であった。

【考察】

今回の結果によりLOH症候群患者における補中益気湯投与による血清総テストステロン値の改善させる可能性が示唆された。今回文献的な考察を加え報告する。